

## 令和5年度 第3回北山公園整備計画意見交換会次第

日時：令和6年2月10日（土）

午前10時から12時

場所：市民センター2階第6会議室

### 1.開会

### 2.議題

(1) 令和5年度事業（報告） 10:00

- ・施設整備事業（木道補修、その他）
- ・休耕田事業
- ・水田運営事業
- ・ナラ枯れ対応
- ・外来種防除事業（外来生物等捕獲状況等（北川かっぱの会））
- ・その他

(2) 北山公園施設改修基本設計について（報告） 10:30

① 第2回意見交換の振り返り

② 基本設計の説明

- (1) 改修（再整備）の基本的な方針
- (2) ゾーニング別の改修方針
- (3) ゾーン別整備計画案
- (4) 1年を通じた水の運用計画

(3) 令和6年度事業（予定）

(4) 道路河川課より報告事項 11:45

3.その他 11:55

令和6年度 北山公園整備計画意見交換会開催日程（案）

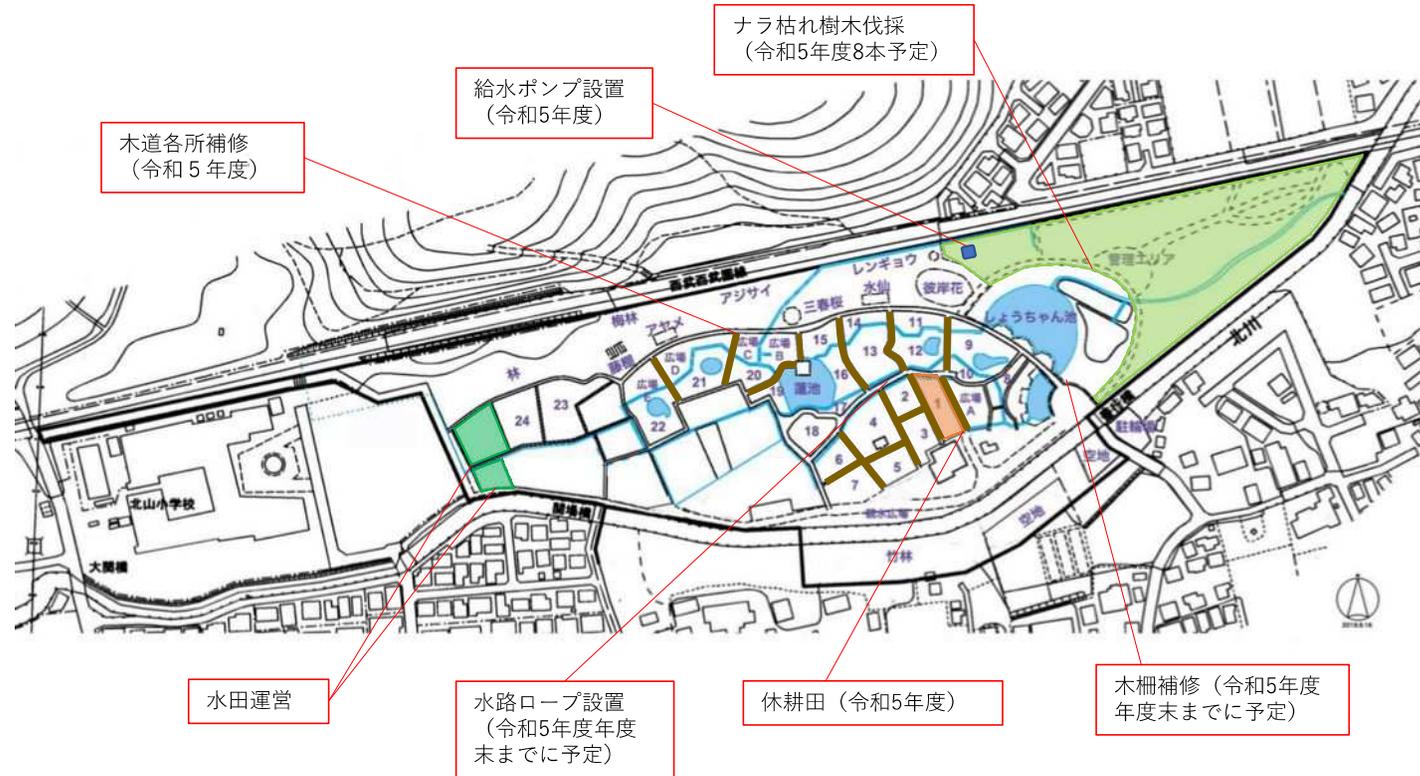
- ・第1回：令和6年5月18日（土） 午前10時から  
市民センター2階 第6会議室
- ・第2回：令和6年9月14日（土） 午前10時から  
市民センター2階 第6会議室
- ・第3回：令和7年2月 8日（土） 午前10時から  
市民センター2階 第6会議室

### 4.閉会

## (1) 令和5年度事業（報告）

- ・施設整備事業（木道補修、その他）、休耕田事業、水田運営事業、ナラ枯れ対応、外来種防除事業、その他について概要を説明した。

## 令和5年度事業の概要



# 令和5年度 北山公園 水田運営事業

○令和5年度 実施状況（ボランティアの皆さんとの協働のもと実施）

項目	日にち	時間	備考
1.水田ボランティア募集	3/1(水)～ 3/24 (金)	—	令和5年度新規ボランティア募集
2.荒起こし①・レンゲ刈り オリエンテーション	4/11(火)	9:00～15:00	新規ボランティア説明会 年度初めのオリエンテーション
3.荒起こし②	4/25 (火)	9:00～15:00	
4.種もみ消毒	5/2 (火)	9:00～12:00	
5.種まき	5/9 (火)	9:00～12:00	
6.荒起こし③・代かき	5/16 (火)	9:00～15:00	
7.苗の成長確認	5/23 (火)	9:00～10:00	
8.田植え	6/6 (火)	9:00～15:00	苗の成長不良により1週間順延
9.草取り①・ミーティング	6/20 (火)	9:00～12:00	前半作業の振り返り
10.草取り②	7/4 (火)	9:00～12:00	
11.草取り③	7/18 (火)	9:00～12:00	
12.ミーティング・後半作業準備	9/5 (火)	9:00～12:00	
13.稲刈り・稲架架け	10/3 (火)	9:00～15:00	1日ボランティア募集・市長参加
14.稲架かけ手直し	10/11 (水)	14:00～16:00	カモのいたずらによる臨時活動
15.脱穀・粃摺り・精米	11/14 (火)	9:00～16:00	1日ボランティア募集・雨で1週間順延
16.ミーティング	12/5 (火)	10:00～12:00	ふりかえり・次年度に向けて

## ○主な活動の様子

### 荒起こし・オリエンテーション

4/11 (火) 9:00~15:00

参加者：ボランティア21名、スタッフ2名



・ボランティア説明会



・荒起こし作業

### 田植え

6/6 (火) 9:00~15:00

参加者：ボランティア15名、スタッフ4名



・田植え



・水中ポンプで強制排水

### 稲刈り・稲架かけ

10/3 (火) 9:00~15:00

参加者：ボランティア23名、スタッフ3名、市役所5名



・稲刈り



・稲架かけ

### 脱穀

11/17 (火) 9:00~16:00

参加者：ボランティア18名、スタッフ3名、市役所2名



・脱穀



・藁くず取り

### 令和5年の成果

- ・ボランティアを公募→7名新規に加入
- ・米の種類をマンゲツモチ（もち米）からキヌヒカリ（うるち米）に変更→収量130kg
- ・稲刈り作業と脱穀作業日に1日ボランティアを募集



# 令和6年度 北山公園 水田運営事業（予定）

	日にち	時間	備考
1.ミーティング他	2/20(火)	—	令和6年度の活動に向けて
2.水田ボランティア募集	3/1(金)~3/22(金)	—	令和6年度新規ボランティア募集
3.荒起こし①・レンゲ刈り オリエンテーション	4/9(火)	9:00~15:00	新規ボランティア説明会 年度初めのオリエンテーション レンゲ刈りと田んぼのあら起こし
4.荒起こし②	4/23(火)	9:00~15:00	荒起こし作業の続き
5.種もみ消毒	4/30(火)	9:00~12:00	
6.種まき・育苗場所作り	5/7(火)	9:00~12:00	
7.荒起こし③・代かき	5/21(火)	9:00~15:00	
8.田植え	5/28(火)	9:00~15:00	水田Aで田植え（予備日：5/29）
9.田植えイベント	6/1(土)	9:00~12:00	水田Bで公募イベント（予備日：6/2）
10.草取り①・ミーティング	6/18(火)	9:00~12:00	前半作業の振り返り
11.草取り②	7/2(火)	9:00~12:00	
12.草取り③	7/16(火)	9:00~12:00	
13.ミーティング・後半作業準備	9/3(火)	9:00~12:00	
14.稲刈り・稲架架け	9/24(火)	9:00~15:00	水田Aで稲刈り・稲架設置（予備日10/1）
15.稲刈りイベント	10/5(土)	9:00~12:00	水田Bで公募イベント（予備日：10/6）
16.脱穀・粳摺り・精米・稲架撤去	11/5(火)	9:00~16:00	（予備日11/12）
17.ミーティング	12/3(火)	10:00~12:00	ふりかえり・次年度に向けて

## 北山公園での外来生物の防除活動について

20240210 北川かっぱの会

- ・東村山市との北山公園外来種防除に関する協定に基づき、2024年度もトウキョウダルマガエル等の在来生物にとって脅威となっているウシガエル（特定外来生物）やアメリカザリガニ（条件付き特定外来生物）などの捕獲を行っていく（4月～10月に実施予定）。しょうちゃん池や菖蒲田等に遮光ネット付きカニカゴ等を設置し、週1回程度、網を引き上げて捕獲予定。
- ・捕獲した外来生物の一部は、北川かっぱの会が主催する北山いきものクラブや市主催のイベント等で展示し、外来生物の問題点や生物多様性の保全の意義など、一般市民向けの啓発用に活用予定。
- ・法令の改正により、昨年6月1日以降、野外への放出、輸入、販売、購入、頒布等を許可なしに行うことが禁止されるアカミミガメとアメリカザリガニについて（捕獲や飼育、無償譲渡はOK；条件付き特定外来生物）、引き続き、改正内容の周知活動を実施予定。
- ・北山公園内に生息するトウキョウダルマガエル等の個体数調査を継続して実施する方向で検討中。

### ■参考；過去11年間の推移

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
ウシガエル(成体)	2	1	3	42	102	44	53	63	39	15	8
ウシガエル(幼生)	10	24	約550	192	77	282	1137	516	342	201	285
アメリカザリガニ	99	126	約550	約760	765	354	784	779	1037	957	601
アカミミガメ	9	11	4	2	5	3		1	2		
クサガメ(再捕獲を含)	13	10	8	1	4	2		1		1	
アライグマ						2					



■日光浴ワナ（アカミミガメ用）



■遮光ネット付きカニカゴ  
(ウシガエル・ザリガニ用)



■遮光型カゴ網（ウシガエル用）

## (2) 北山公園施設改修基本設計について（報告）

- ・第2回意見交換の振り返りを行った。
- ・基本設計の下記の項目について説明を行った。
  - (1) 改修（再整備）の基本的な方針
  - (2) ゾーニング別の改修方針
  - (3) ゾーン別整備計画案
  - (4) 1年を通じた水の運用計画

## ① 第2回意見交換の振り返り

項目	質問・意見 ( ): 発言者、青字: 要望・意見	対応
現況施設について	・(出席者) ピットの周りの柵がボロボロになっている。安全管理上の観点で修繕していただきたい。	・指定管理者と調整中です。
<b>施設改修基本設計について</b>		
北川	魚が隠れる場所の整備 ・(出席者) 北川には小魚がいたり、カワセミがいる環境も大事にしていく必要がある。資料の3ページに「魚が隠れる場所の整備を検討」とあるのは、子どもたちが川で魚捕りするにも、こういった場所を網でガサガサやって魚が捕れるので、検討しているということでありがたいと思う。 →(道路河川課) 善行橋の上下流部は、毎年の定期的な草刈りは行っていない。今後どういうあり方がいいか、現地でディスカッションできればと考えている。	・R6年度作業に先立ち、市担当と現地立会を実施し、R6年度以降の対応を検討します。
北川と園内へのポンプアップの調整	・(出席者) 夏の時期に大関橋ポンプで公園に水を流しているために、北川の北山小学校の西側あたりは水が流れず干上がっているような状況がある。今と同じ状況で通年ポンプアップすると、年中、北川の水が少なくなるということになる。 水量調整できるポンプにするか、川に杭などを打つなどして常時水が溜まっている環境を確保できるようにするなど、検討してほしい。 →(みどり公園課) ポンプと制御盤を更新したいと考えており、予算措置する方向で動いている。 水路を改修し、ポンプが更新され細かい制御が可能になれば、今のように園内に朝から夕方までポンプアップしなくても、必要な箇所に水が行き渡ると思われる。北川にも水が流れるような状態をつくりたいと考えている。	・R6年度にポンプと制御盤の更新を行う予定です。
菖蒲田内の池	・(出席者) 現況で菖蒲田の中に池がいくつかあるが、計画図には記載されていない。なくすのかどうか。 今は、冬に水が枯れてしまうが、冬場も水と水草があれば、トンボのいい産卵場所になる。場所は変わってもいいので、池の環境は残してほしい。	・計画に反映しました。 詳細は資料 P10 参照。
しょうちゃん池	・(出席者) 一年中水があるのに、水際に植物がなくトンボが産卵できない。水際に浅場をつくり、水生植物が生育できる環境を整備してほしい。 ・(出席者) 今年になってハスが繁殖している。ハスがあるのはいいと思うが、範囲を限定した方がいいと考える。	・計画に反映しました。 詳細は資料 P8 参照。
南側樹林	・(出席者) 南側の民家の方の林は、人が入らないので、自然の状態を維持すると鳥が定着する可能性がある。 人が入らない林や草地のエリアを残す計画にしてほしい。	・樹林は基本的にコナラやクヌギは高木化したものや老木を順次伐採します。 ・新たに植えることはせずに、自然に生えてくる物を管理し、できるだけ手を入れずに自然の樹林を残していきます。

項目	質問・意見 ( ): 発言者、青字: 要望・意見	対応
水路のあそび	・(出席者) 水路に入れる場所が「親水エリア」だけになってしまうと現況に比べて狭すぎる。水田の方の水路は引き続き遊べるようにできないか。 ・(みどり公園課) ロープ柵の位置の違いで、現地の管理人も人によっては入っていいと言う人もいて、公式ルールが無く、ローカルルールで対応している状況。今後は誰が見ても分かるように入っていいゾーンとダメなゾーンを明確にして、ルールを決める方がいいと考えている。 ・(出席者) 入っていい場所とダメな場所を明確に分けるのがいいかどうか、引っかかっている。 ・(みどり公園課) 管理者としては、危険要因はなるべく取り除いておきたいという考えもあるが、根本に北山公園の生きもの・水・緑がある自然環境を思う存分使っていただきたいという思いもある。今はあいまいなグレーな状態であるという認識。今日だけでは結論がでないので、改めて整理させてもらいたい。 →(出席者) 継続して話をしていきたい。	・計画に反映しました。 詳細は資料 P4・5 参照。

## ② 基本設計の説明

## (1) 改修(再整備)の基本的な方針

- ・これまで大切に守り、利用されてきた「里山の景観」「水田」「樹林・草地、湿地」「子供の遊び場」を保全する。
- ・菖蒲田は管理等の費用対効果、開花期以外の状況を踏まえ、現状以上に拡張しない。  
生きものの生息環境となっていることを踏まえ、湿地機能の広場などへの転換や大規模な減少につながる改修は行わない。  
(一部、子供の遊び場確保および水路・木道改修に伴い、形状を変更する)
- ・一年を通して、水田や植物、生きものによる季節の変化を体感できる環境を創出し、水路にも通年で水を流すよう検討を行う。
- ・生きものが生息しやすい環境と、子供が遊びやすい環境を充実させる。
- ・公園の管理や活動拠点となる施設や場を整備する。

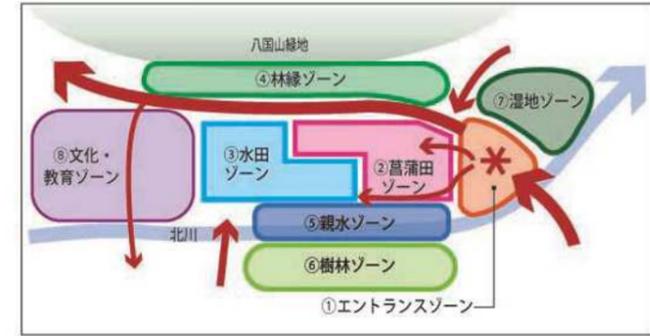


基本設計平面図

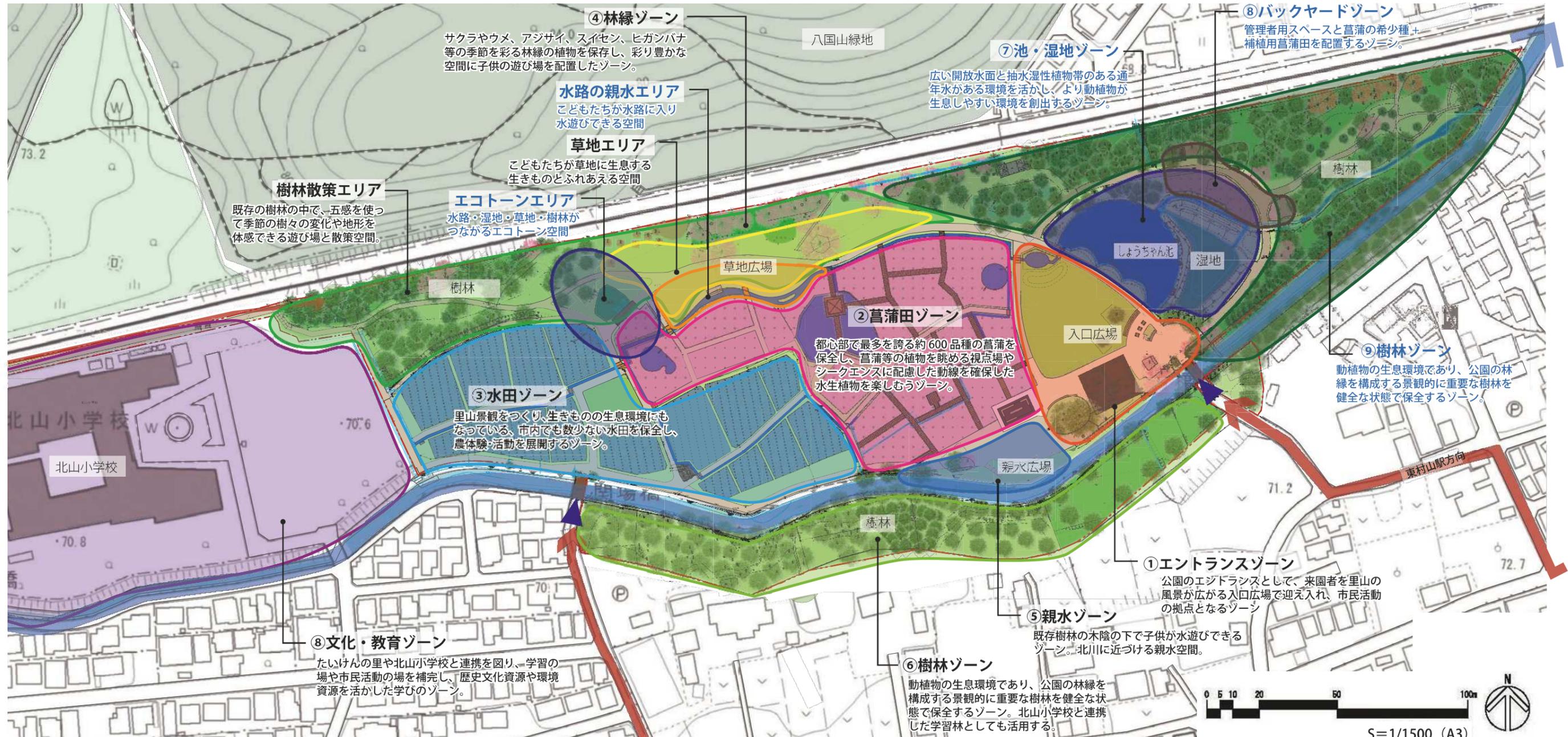
(2) ゾーン別の改修方針

基本計画のゾーニングの考え方を踏襲するが、一部詳細な区分けを行い、9つのゾーンを設定。 ※青字：基本計画からの変更箇所

- ・基本計画の⑦湿地ゾーンを、「池・湿地」「バックヤード」「樹林」ゾーンに分けて設定。
- ・④林縁ゾーン内に既存湿地を中心とした「エコトーンエリア」と「水路の親水エリア」を新たに位置づけ。



基本計画のゾーニング概念図



### (3) ゾーン別整備計画案

#### 1) 水田ゾーン

##### ○整備の考え方

- ・里山景観をつくる「田んぼ活動」を行いやすくなるよう、主に水路と園路の整備を行う。
- ・水田の区画割りは、基本的に現況を踏襲する。活動の拠点として、水田の中央部分に草地広場を整備する。また、水田の周りに草地を確保し、田んぼ活動の作業を行うための空間を確保する。
- ・水路の水で道具を洗えるよう、階段状の洗い場を整備する。

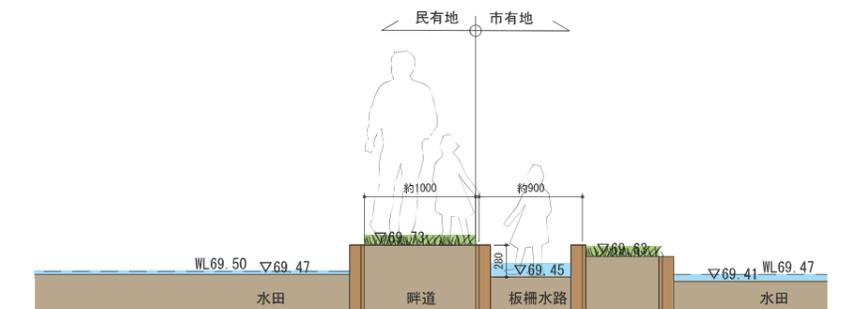
##### ○園路の舗装材・幅員

- ・既存の未舗装や草状の畦道となっている箇所は、園路として舗装化する。
- ・水田や菖蒲田の景観になじむ、土系舗装や木チップ舗装などを候補とする。
- ・主園路は管理車両（軽トラックW1.5m）と人が余裕を持ってすれ違えるよう、幅員3mを標準とする。
- ・水田周辺の園路は、小型の農機具（トラクターや稲刈り機など）が通れるよう、幅員2mとする。

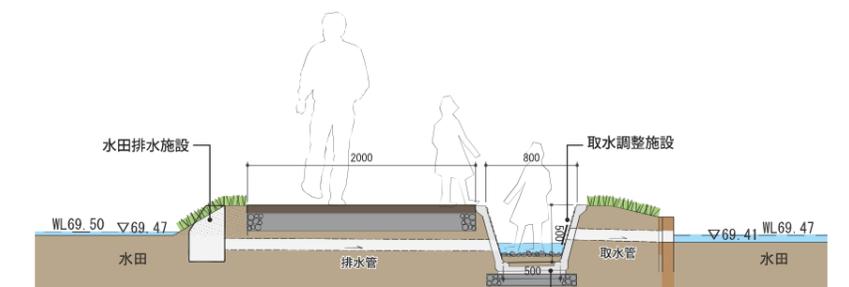


##### ■水田水路

- ・水田に水を供給する水路は、漏水しづらく配水性が高いPC製品を用いる。
- ・生きものが水路を移動できる（這い上がる）環境、生息しやすい環境をできるだけ整える。
- ・現況と同程度の水路路幅・深さを基本とし、現況の子供の水路遊びの場を継承する。



水田水路 現況断面図 S=1/60



水田水路 計画断面図 S=1/60

##### ■生きものが移動しやすくする方策案

##### 自然共生型水路

小動物がのぼりやすい広角傾斜と内側壁面にうろこ状の凹凸の突起をつけたPC製水路



##### PC製水路+多孔質溶岩シート

生きものの移動と植生の活着を促す、多孔質溶岩シートをPC製水路の側面に貼る



小動物の休息・移動空間として

##### 取水施設



##### 排水施設

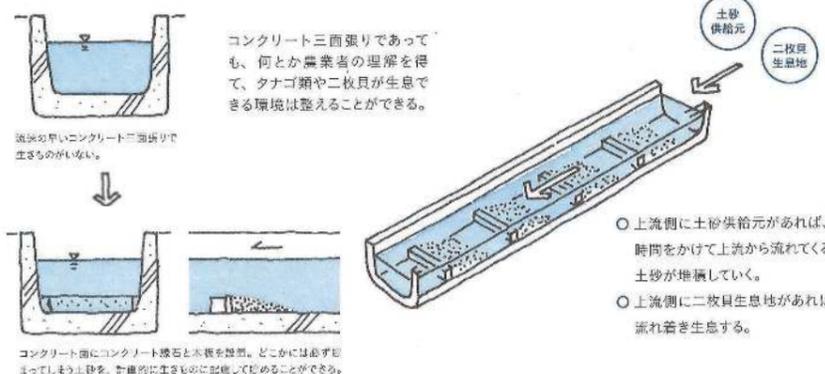


今後、下記を条件に、営農者の方の意見を聞きながら選定していく。

- ・丈夫でこわれにくいシンプルな構造
- ・子供の水路遊びの安全面に配慮

##### ■生きものが生息しやすい環境を整える方策

##### 15-2 小さな自然再生の例：木材や礫を使った簡易な堰上げ構造物

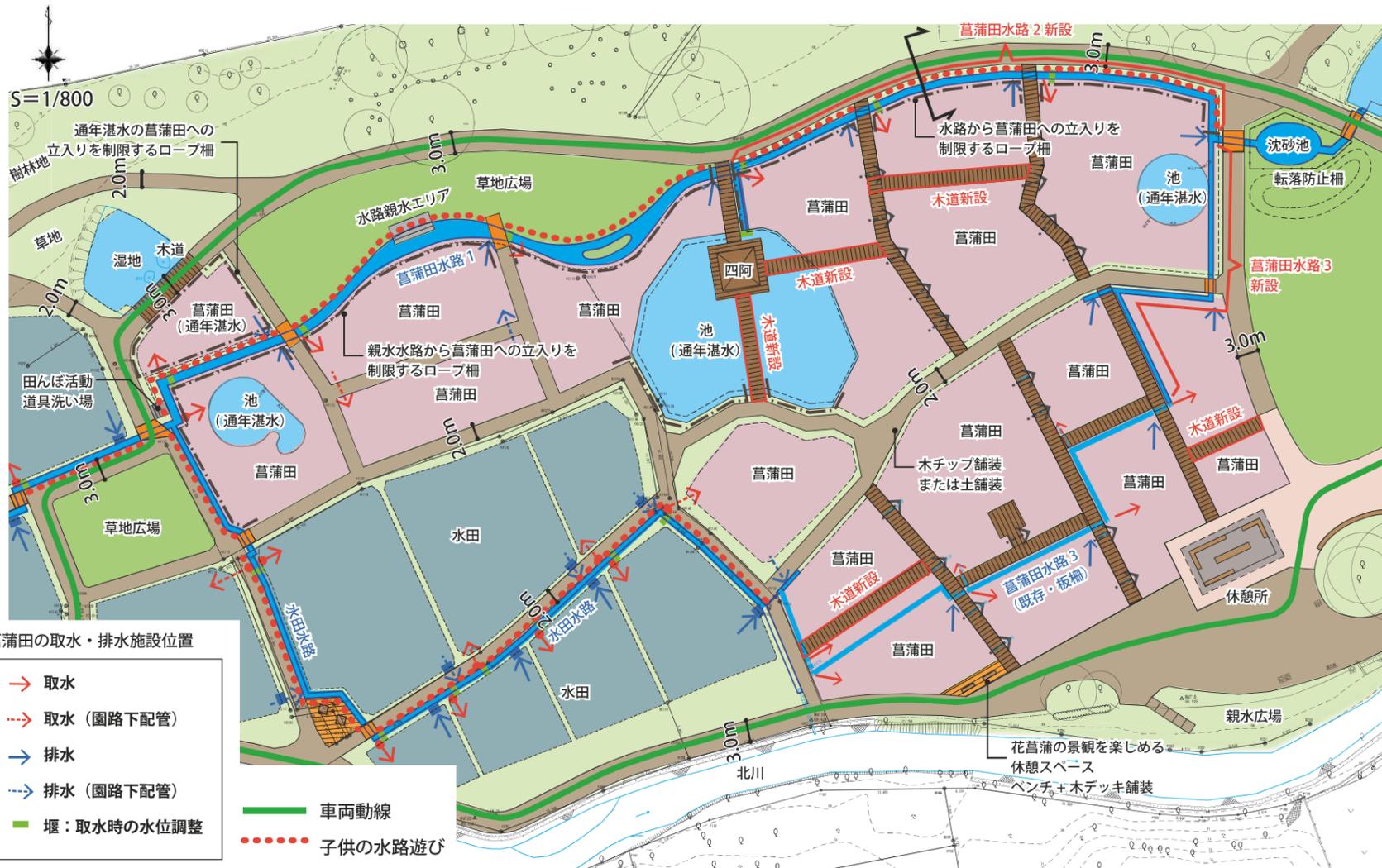


出典/「水田・水路でつなぐ生物多様性ポイントブック」公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWF)

## 2) 菖蒲田ゾーン

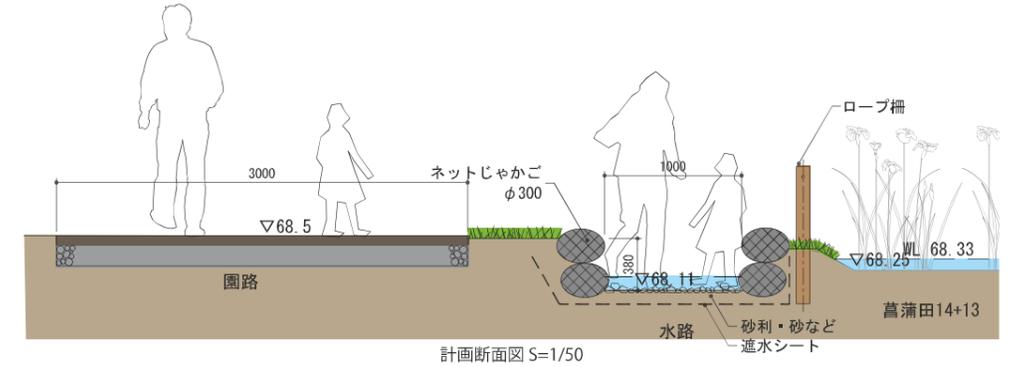
### ○整備の考え方

- ・木道を安全に通行できるように、老朽化している木道を改修する。
- ・花菖蒲の鑑賞、日常利用の回遊性を高めるため、東西方向のルート、四阿から南側に渡るルートを新設する。



### ■菖蒲田水路2

- ・北側の園路沿いの水路は、ネットじゃかごを護岸に用いた、多自然型の構造とする。



ネットじゃかご: 化学繊維の網でできた繊維系の蛇籠 (じゃかご)。中詰材の石の間に植物が定着しやすく、湿った環境ではネットにも苔が生え、自然になじむ。



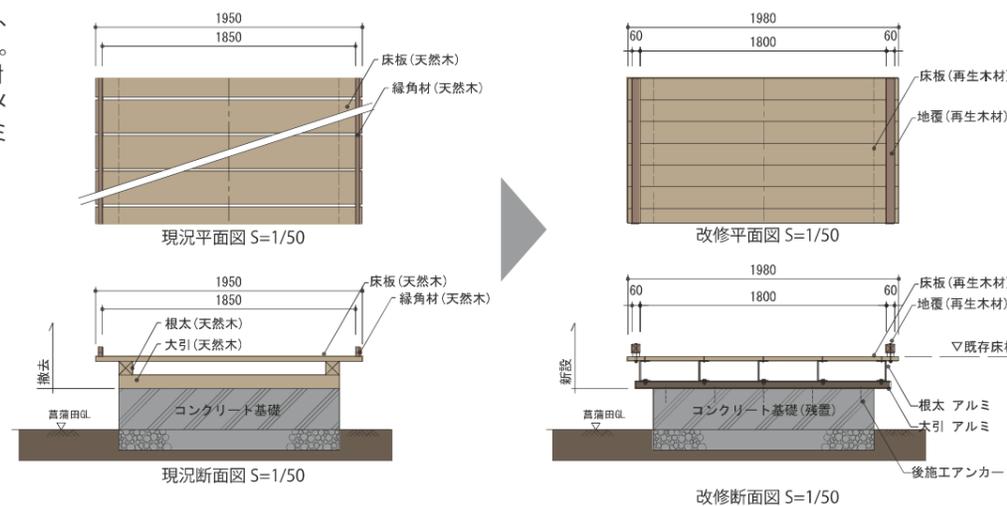
### ■菖蒲田水路3

- ・管理棟側の菖蒲田の水路 (菖蒲田水路3) は、H30年に改修した既存水路を活かし、一部を新設する。木道から花菖蒲までの距離を最小限におさえられる板柵水路とする。



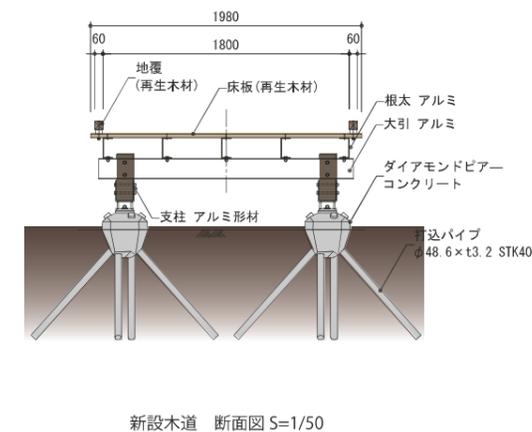
### ■木道改修

- ・既存の木道のコンクリート基礎を残し、上部 (木板や根太等) を撤去・新設する。
- ・新設・上部改修する木道の材料は、耐久性があり更新までの期間が長く、メンテナンスが容易な再生木材とアルミ合金を用いる。



### ■木道新設

- ・菖蒲田が分断されず、生きものも行き来できるように、地中に杭を打ち込むタイプの基礎を用いて新設する。



新設木道 イメージ



### 3) 林縁ゾーン

#### ①水路の親水エリア



- 整備の考え方
  - ・子どもたちが水路に入り、水遊びや生きものとのふれあいができる空間を整備する。(水路に通年水を流す)
  - ・土水路を基本とした多自然型の水路とする。(地中には遮水シート等の防水層を設ける)
  - ・水路の幅などに変化を持たせ、小川のような環境をつくり、生きものの生息環境を整える。
  - ・菖蒲田との間に、水路側から隣接する菖蒲田に入らないよう、ロープ柵を設ける。

#### ○親水水路 イメージ写真



水路イメージ



水路イメージ



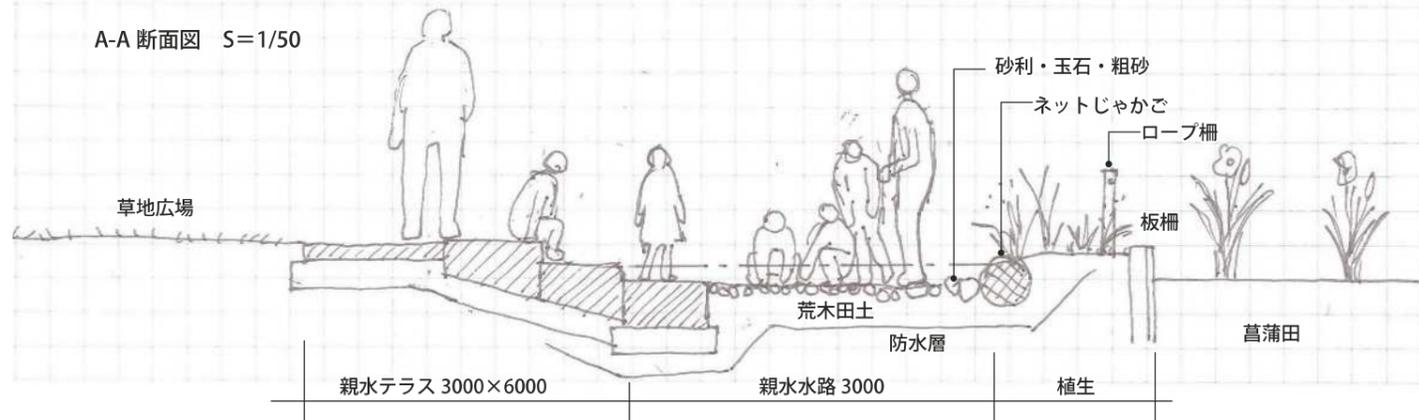
中の島・護岸イメージ



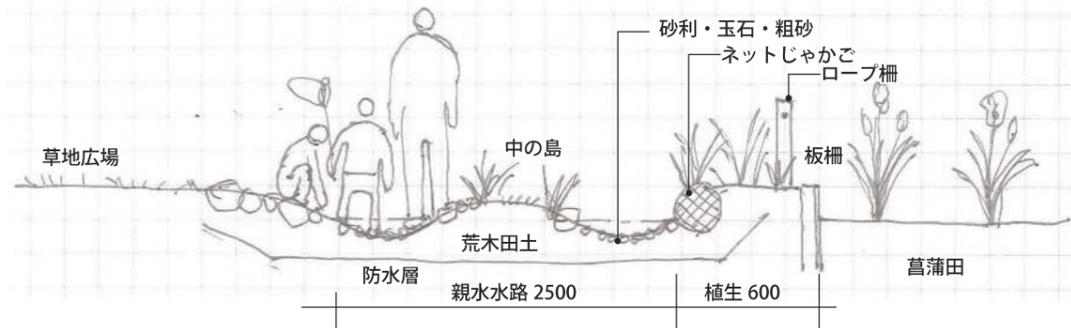
親水テラスイメージ

S=1/500

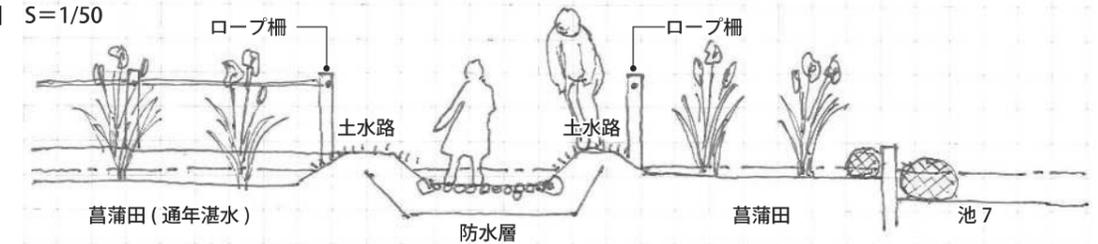
A-A 断面図 S=1/50



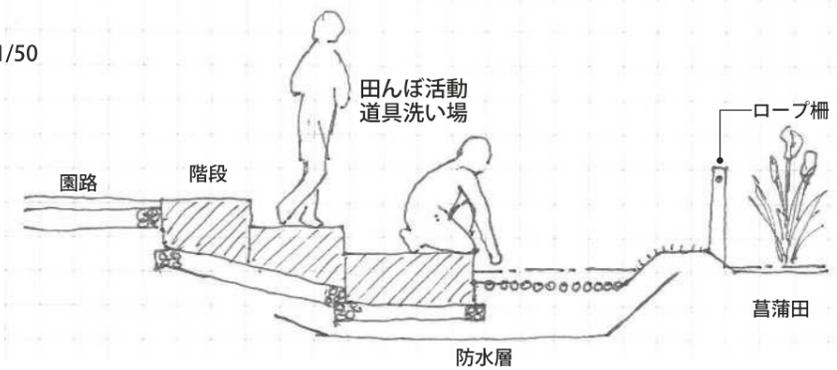
B-B 断面図 S=1/50



C-C 断面図 S=1/50



D-D 断面図 S=1/50



### ②エコトーンエリア

#### ■現況

##### ○湿地

- ・既存の湿地は地下水位が高く湿っているが、水は溜まっていない。
- ・ミゾソバ、セリ、ヒデリコなどの湿生植物が繁茂している。
- ・まわりを園路や草地に囲われた、独立した環境となっている。

##### ○菖蒲田・水田・水路

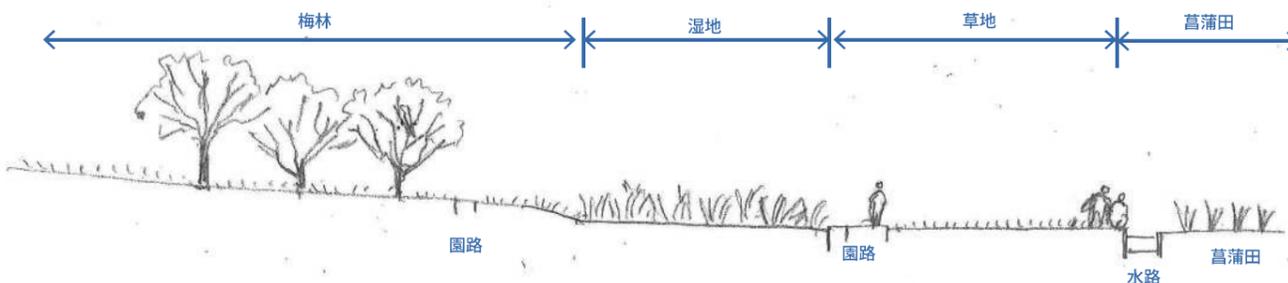
- ・菖蒲田や水田、水路の広範囲にミナミメダカ（東京都絶滅危惧ⅠA類）が多数みられる。

##### ○植栽

- ・湿地の北側・西側はウメが植栽されている。
- ・ウメの北西側には落葉広葉樹（エノキ・コナラ・イヌシデ等）を主体とした樹林が広がっている。



湿地・梅林



A-A 現況断面図 S=1/200

#### ■整備計画案

##### ○整備の考え方

- ・草地性の昆虫、陸域と水辺を行き来するカエル類等の生息により適した環境を維持するため、独立した環境となっている湿地と周辺の自然環境をつなぎ、西側の樹林～草地～湿地～菖蒲田～水路へと、陸域から水辺につながるエコトーンをつくる。

##### ○湿地

- ・水路は構造によってはカエル類の移動が難しくなることもあるため、湿地と水路の間に通年湛水の菖蒲田を配置し、陸域から水辺へ容易に移動できる断面構造とする。
- ・水路と通年湛水の菖蒲田との水域のつながりを常に保ち、ミナミメダカが年間を通して継続的に生息できる環境を維持する。

##### ○木道

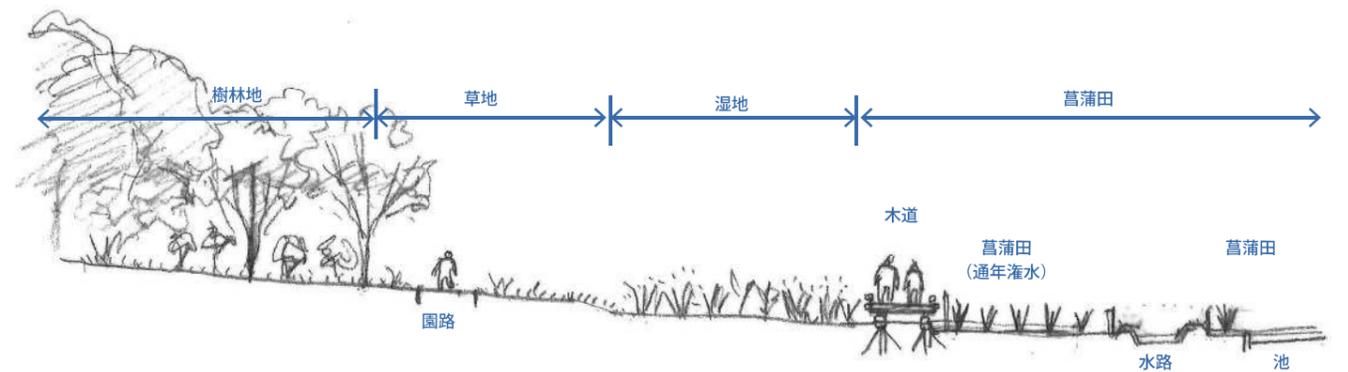
- ・湿地と菖蒲田の間は、生きものが移動できるように、杭打ち込みタイプの木道を通す。

##### ○樹林

- ・湿地・草地と連続する生きものの生息に適した樹林環境とするため、梅林の範囲を縮小し、西側の樹林を構成する樹種を植栽して樹林を東側へ拡張する。



木道のイメージ



A-A 計画断面図 S=1/200

### 4) 池・湿地ゾーン (しょうちゃん池・湿地)

#### ■現況

##### ○池の構造

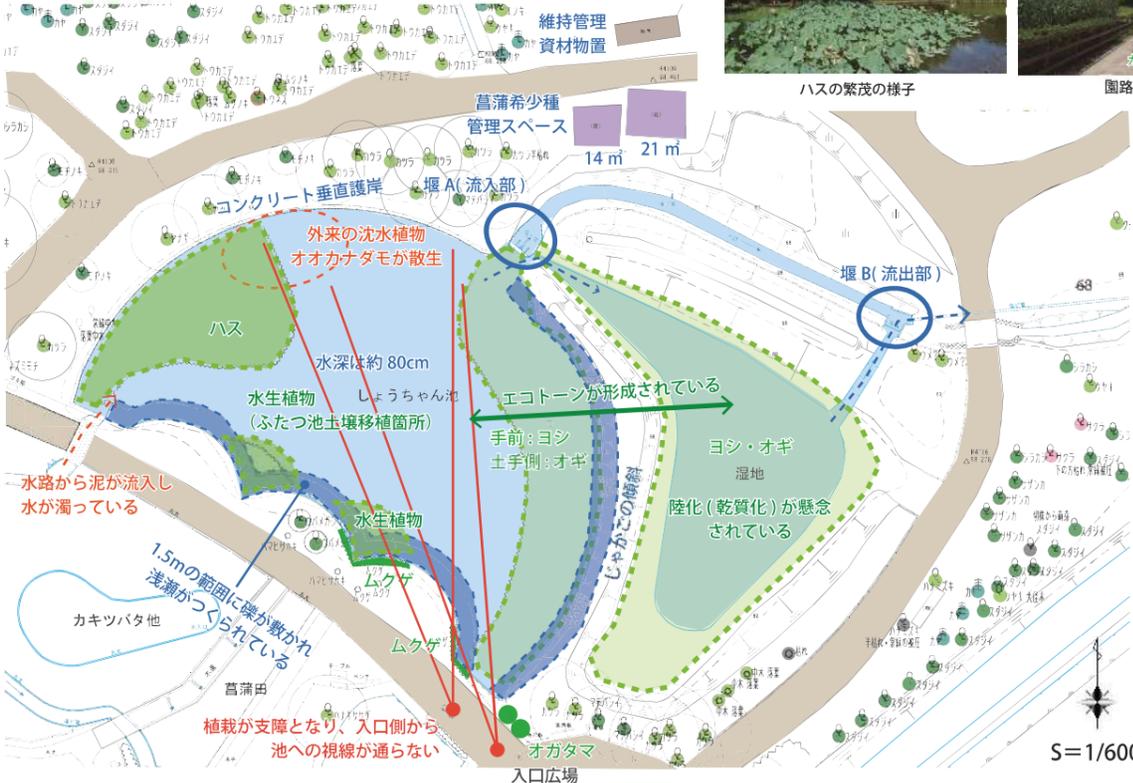
- ・しょうちゃん池の池底はコンクリートで水深約80cm。
- ・園路側の護岸際2～3mに礫が敷設され、水深が浅くなっている。
- ・東側の池縁はじゃかごが積まれて傾斜がつくられている。
- ・北西側の護岸はコンクリートの垂直護岸となっている。

##### ○植生・植栽・生きもの

- ・東側は開放水面から湿地へと続く抽水植物帯 (エコトーン) が形成されている。
- ・ヨシの範囲が徐々に池側に拡大してきている。
- ・H30年のかいぼりの際に八国山のふたつ池の土壌を移植した園路際の礫の部分に、水生植物が繁茂している。
- ・外来の沈水植物、オオカナダモが散生。
- ・北西側にハスが繁茂している。
- ・ウシガエルの幼生が多く生息している。

##### ○景観

- ・園路側の中木、柵の護岸側のムクゲにより、入口側から池に視線が通らず、池の存在を認識しづらい。水面が広がる景観を楽しめない状況。



#### ■整備計画案

##### ○北西側護岸のエコアップ (C-C断面)

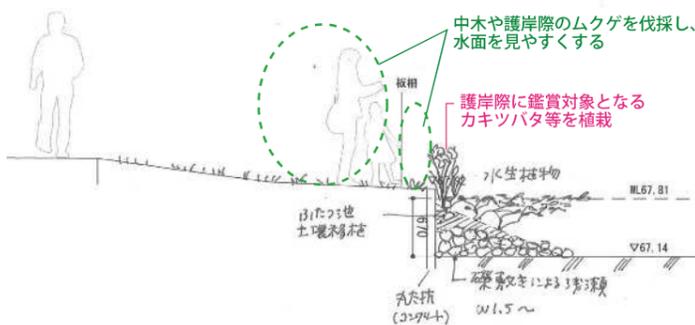
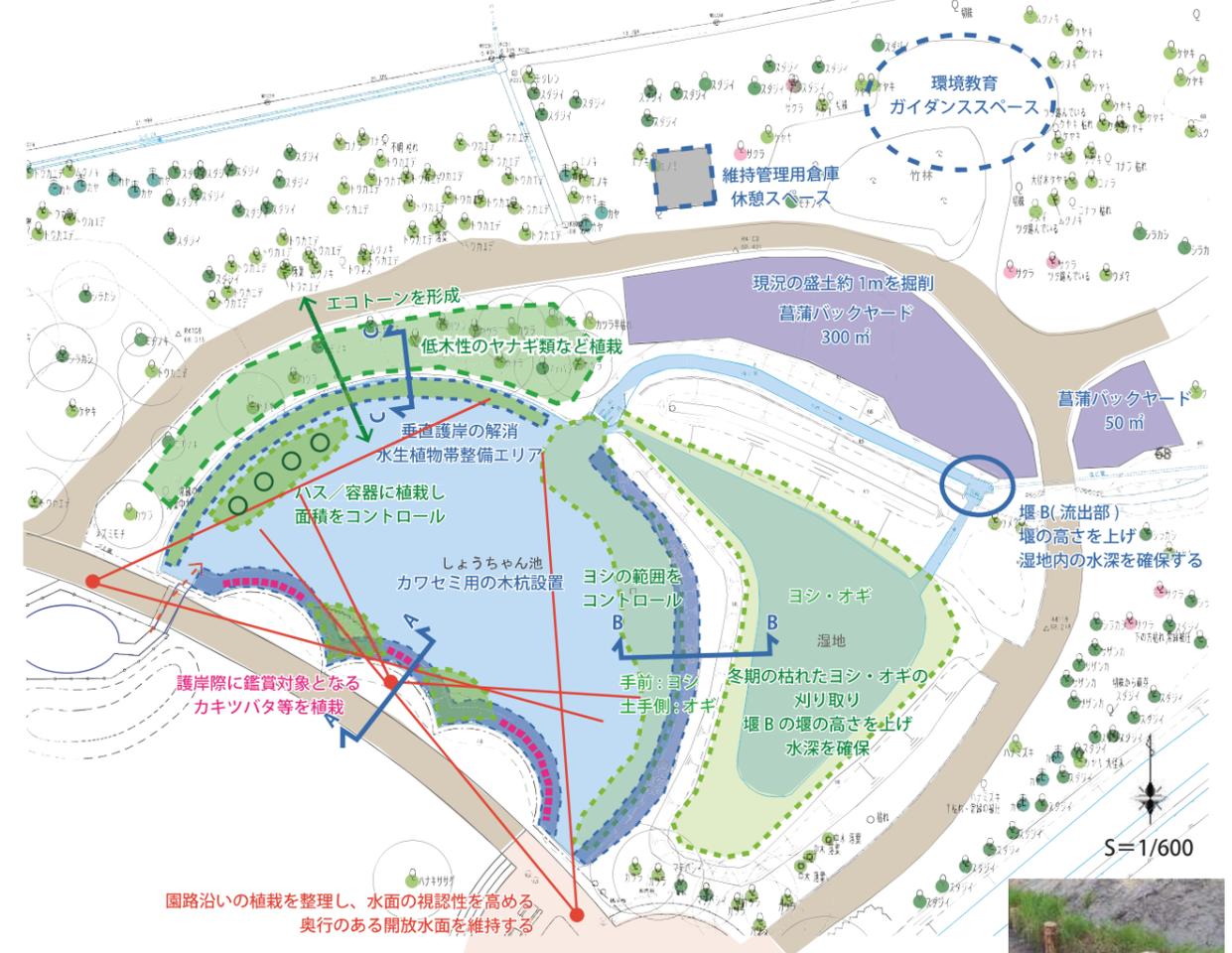
- ・垂直護岸となっているため、園路と池の間の植栽地を含めてエコアップを図る。
- ・護岸に沿って、段差を解消する施設を整備する。(ネットじゃかごやヤシロール多段積みなど)
- ・護岸際の浅場に水生植物帯を設置する。カキツバタ、サンカウイなど従来の水生植物を植栽し、ヤゴなど水生小動物の隠れ場を増やす。
- ・北西側の水際にはイヌコリヤナギなど低木性ヤナギ類を植栽する。
- ・ハスは池全体に繁茂しないよう、容器に植栽するなどしてコントロールする。

##### ○園路側

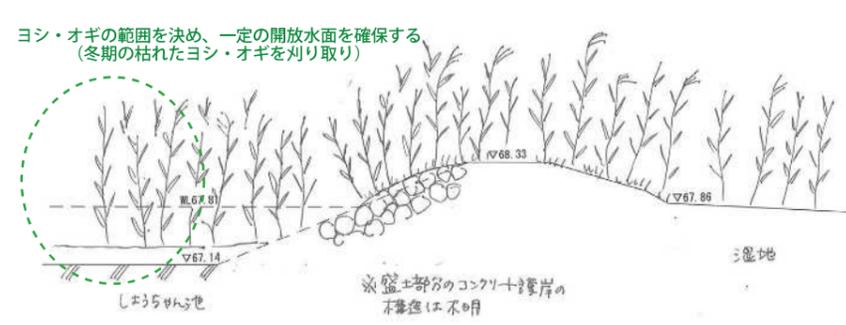
- ・園路側は既存の中木や護岸側のムクゲを取り除き、園路や半円形のスペースから水面を認識できるようにする。
- ・池際に、人を惹きつける、鑑賞の対象となるカキツバタなどを植栽する。

##### ○池内

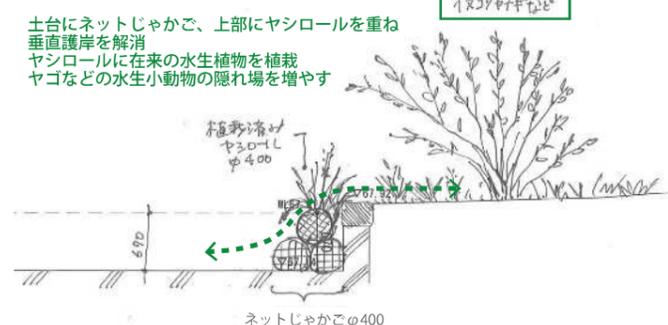
- ・カワセミの止まり木として、池の中央や水生植物帯の近くに木杭を設置する。



A-A 計画断面図 S=1/80



B-B 計画断面図 S=1/80



C-C 計画断面図 S=1/80



### 5) エントランスゾーン

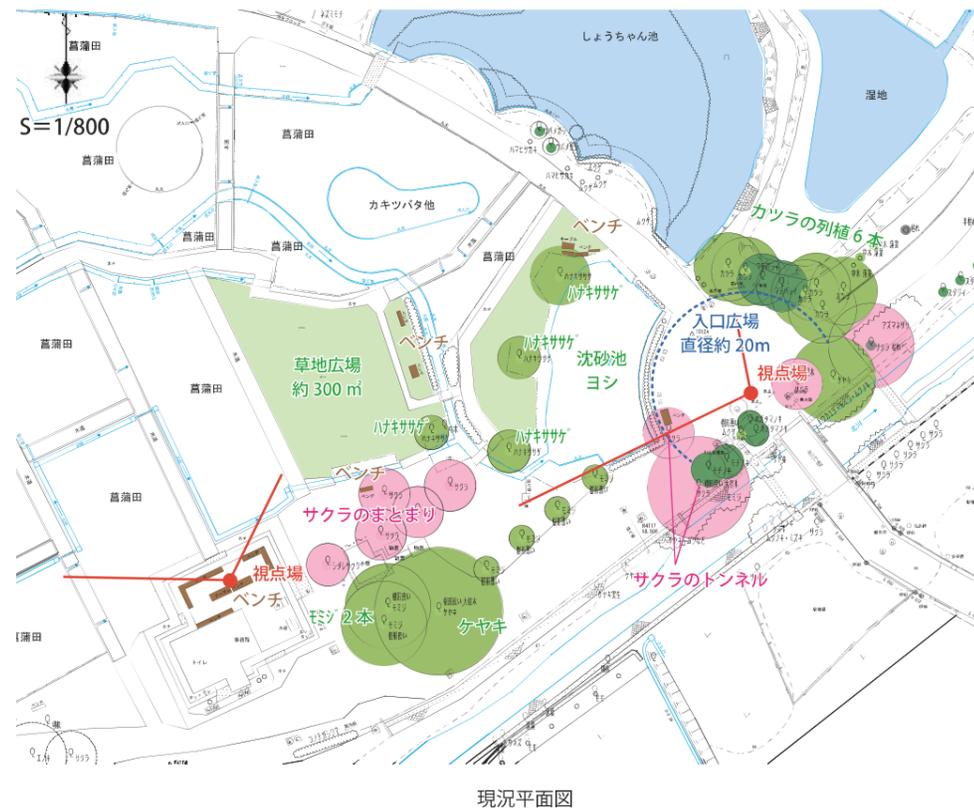
#### ■現況

- ・入口広場、草地広場、管理棟周辺などの小規模な空間が、沈砂池や園路・水路などにより分割されている。
- ・下記の現況の良い特徴を活かして整備案を検討する。
  - ・入口広場から臨む、空と八国山の稜線が東から西になだらかに下がっていくパノラマ景観
  - ・東側サクラ2本のトンネル
  - ・シンボリックな樹形のハナキササゲ
  - ・公園北側から管理棟方向を見た時の重要な景観のポイントになっている、大径木のケヤキ・モミジ
  - ・北山公園ならではの菖蒲田と八国山、西武線の電車を眺められる視点場となっている管理棟休憩スペース
  - ・管理棟屋根による額縁効果のある眺め

#### ■整備計画案

##### ○整備の考え方

- ・隣り合う空間に視線が通り一体的につながる空間として、エントランスゾーンを整備する。
- 【入口広場】来園者を迎入れる広場、公園の顔となる空間として、公園の緑と背後に広がる八国山の稜線を一望できる場を整備する。
- 【集まり広場】園内で一番広いまとまった草地広場を憩い・遊びの空間として整備する。管理棟との一体的な利用や菖蒲まつりの際は出店のスペースとして活用するなど、多目的に使える空間とする。沈砂池の南側に築山を設けて転落防止柵を隠し、草地と八国山の間が連続して見えるようにする。
- 【屋根付き休憩所】現況の管理棟と同じ位置に整備し、菖蒲田と八国山、西武線の電車を眺められる視点場を継承する。親水広場でのイベント開催時には、親水広場と一体的に利用できる。
- 【管理棟】入口広場からの八国山の稜線と菖蒲田の広がりを見えるだけ阻害しないよう、北川に寄せた配置とする。



サクラのトンネル



樹形のよい大径木のケヤキ・モミジ2本



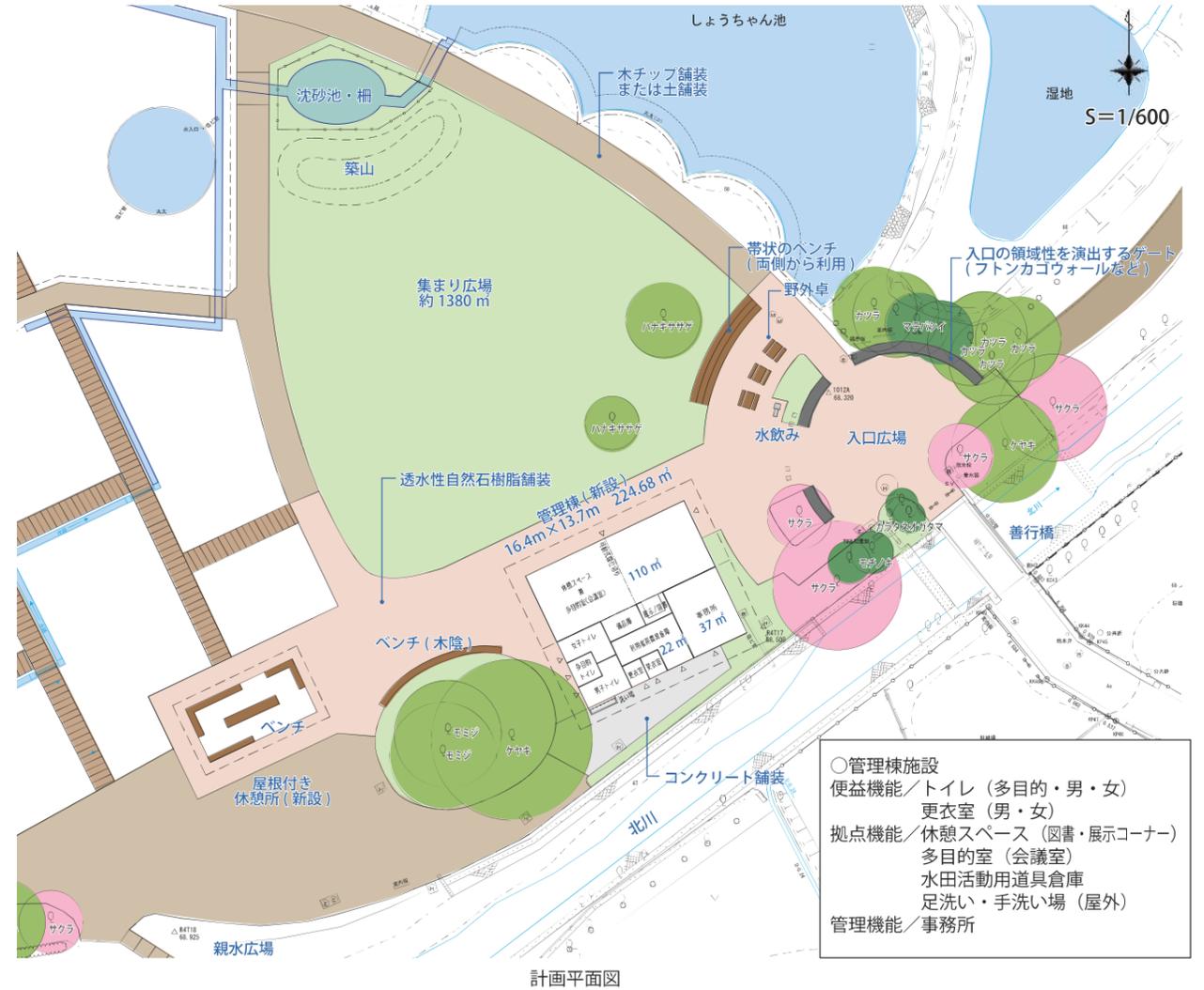
ケヤキの遠景 (菖蒲田方向から)



管理棟屋根の額縁効果



入口広場からの八国山方向の眺め



#### 施設のイメージ



フトンカゴウォール/入口広場の領域を演出多孔質な空間が生きものの隠れ場所にもなる



带状のベンチイメージ



透水性自然樹脂舗装イメージ

(4) 1年を通した水の運用計画

○現況園内の水環境

大関橋ポンプの稼働期間外(10月~4月)は、水の供給が絶たれるため、下記4タイプの水環境となっている。

- ・夏のみ湛水/水田、菖蒲田、池5(ハス池)
- ・通年湛水/しょうちゃん池(水深80cmほど)  
菖蒲田内の池4箇所(水深15~30cmほど) ※冬場は雨不足で干上がる場合もある
- ・通年湿地/しょうちゃん池東側の湿地、沈砂池、西側の湿地

○菖蒲田内の池の改修

菖蒲田内の池4箇所は、カキツバタの植栽地や生きものの生息環境として機能している。大関橋ポンプが停止する冬場でも湛水状態を保っているものが多く、アカガエル等が産卵するなど、野生生物にとっては貴重な水場となっている。

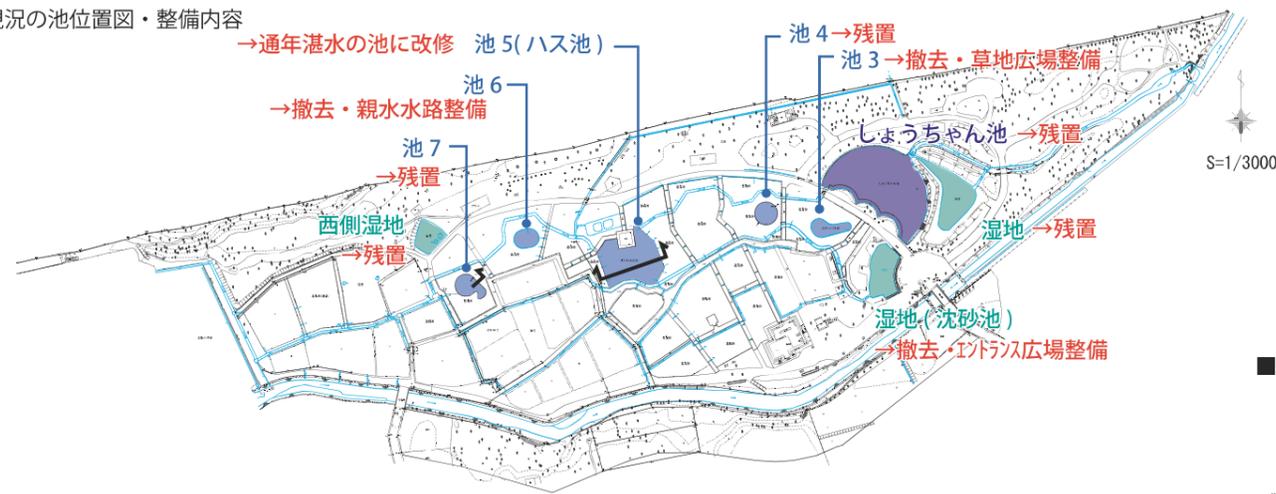
【現況の課題】

- ・池5(ハス池)は、夏場は遊泳魚が多く確認できるが、冬は干上がるため、ほとんどの魚類は冬期に死滅していると推測される。
- ・他4箇所の池は、湛水時の水深(15~30cmほど)が、トウキョウダルマガエル、ヤマアカガエル、ニホンアカガエルの繁殖にとってはやや深すぎる状態であり、むしろウシガエルにとって好適な環境となっている。
- ・池は杭で囲われており、カエル類の移動を阻害している。特に指に吸盤のないカエル類にとっては、利用しづらい構造となっている。



池7 水深23cm / カキツバタ  
池6 水深25cm / 植栽なし  
池5 水深7cm / ハス  
池4 水深15cm / スイレン・花菖蒲ポット  
池3 水深35cm / カキツバタ

現況の池位置図・整備内容

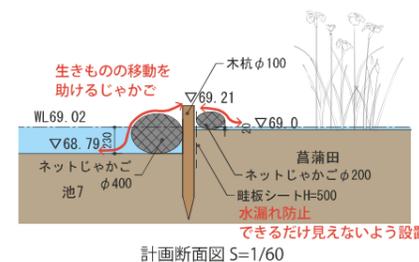
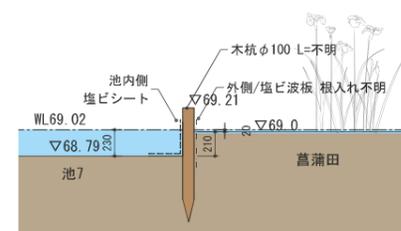


【整備の考え方】

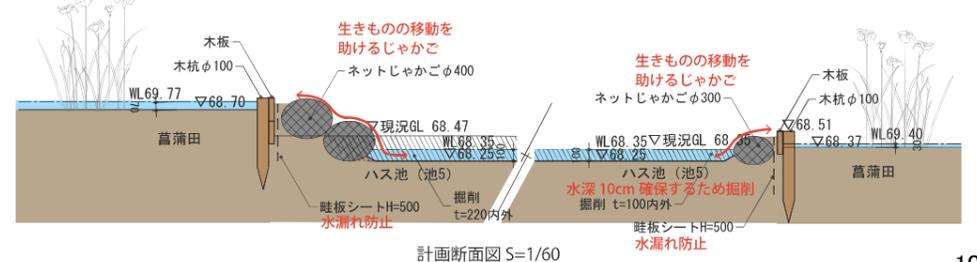
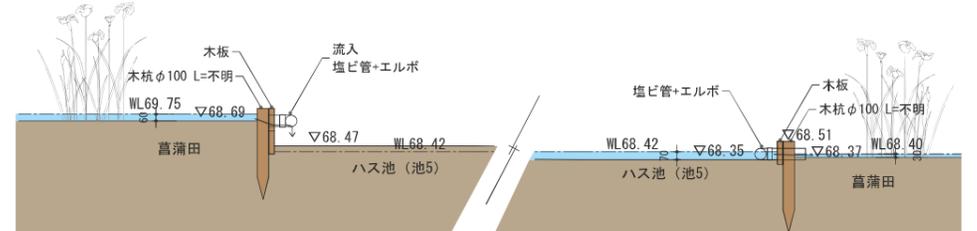
- ・生きものの生息・繁殖場所として重要な環境であるため、現況位置で残せる池は残置する。(池4・7)
- ・計画と競合して撤去する池(池3・6)に替えて、池5改修し、通年水のある止水環境を新たに整備する。
- ・より生きものが生息しやすい環境となるよう、水を保持できる耐久性の高い「畦板シート」を用いた池外周部の改修、カエル類などの生きものが移動しやすくなる「ネットじゃかご」を用いた改修を行う。
- ・整備にあたり、下記に留意する。  
掘削で生じた土壌は、同じ環境での埋戻し等に利用し、できるだけ場外処分とならないよう配慮する。  
生きものや希少な植物は、類似した環境に移動したり、掘り上げて整備後に戻すなどの対応を図る。



■池7改修



■池5改修



○整備後の水の運用計画

- ・整備後は、大関橋ポンプを通年稼働させ、一年を通して流水環境が保たれる環境を創出する。
- ・また、池5とエコトーンエリアの菖蒲田を通年湛水の池として整備し、浅い止水環境の面積を増やし、生きものが生息しやすい環境を整える。

水田・菖蒲田の水入れ期間外(10~4月)の園内の水環境  
現況



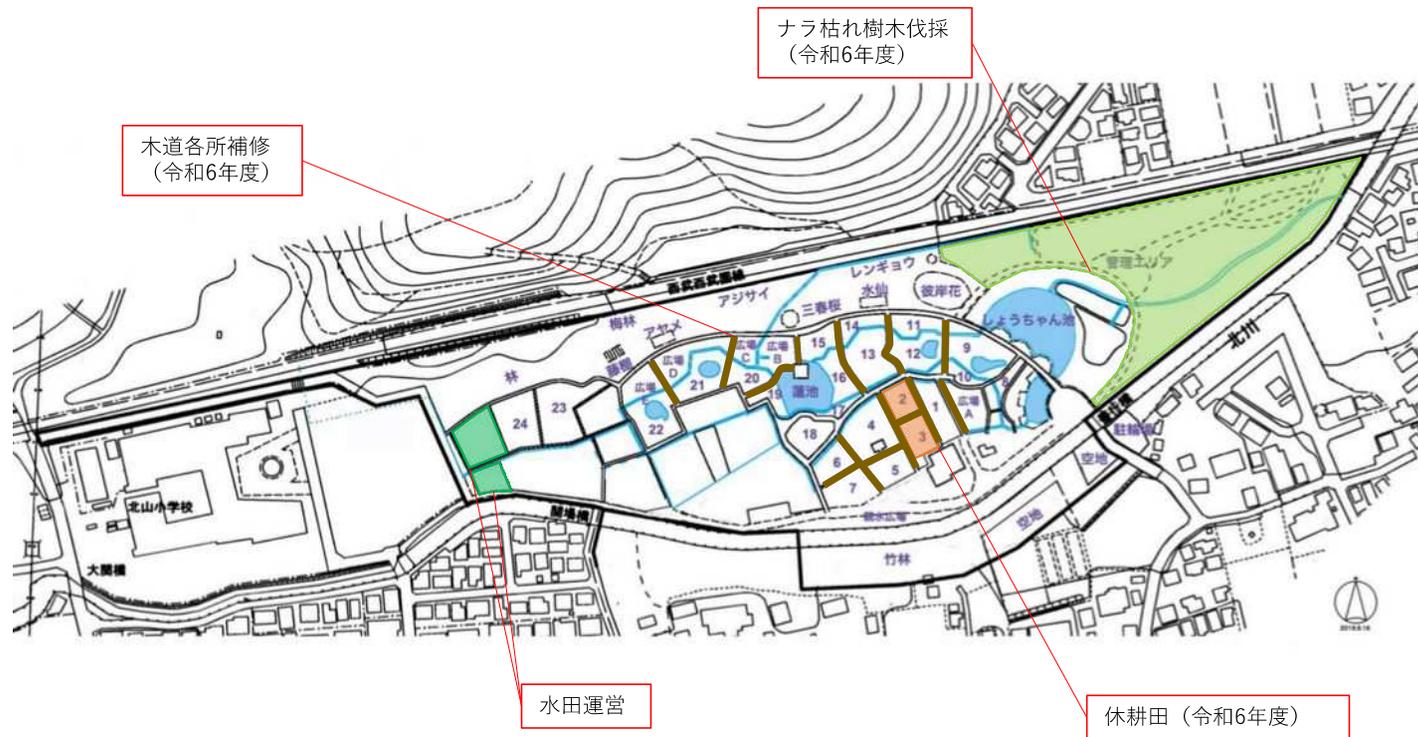
整備後



### (3) 令和6年度事業（予定）

- ・令和6年度に予定している事業について、公園指定管理者である「アメニス東村山市立公園グループ」より説明した。

## 令和6年度事業の予定



#### (4) 道路河川課より報告事項

- ・北川沿いの樹木に対しての伐採対応について報告した。



① 多摩湖町 1 丁目 34 番地先

高木伐採 平地 C=120cm以上 180cm 未満	1本
竹伐採 平地 H=60cm以上	10本

北川の右岸(多摩湖町 1 丁目 34 番地先)からの実生木。  
当該樹木は北川を跨る人道橋付近に生えており、道路の見通し  
を著しく阻害している。また、当該道路は住宅街を結ぶ路線のた  
め、自動車の他、自転車の往来も多い場所となっている。  
道路の安全確保のため、伐採にて対応されたい。





② 多摩湖町 1 丁目 34 番地先

高木伐採 法面 C=60cm未満	1本
高木伐採 法面 C=120cm以上 180cm 未満	1本

北川の右岸(多摩湖町 1 丁目 34 番地先)からの実生木。

当該樹木は北川を跨る人道橋付近に生えており、道路の見通しを著しく阻害している。加えて民地絵の越境も確認している。

また、当該道路は住宅街を結ぶ路線のため、道路の安全確保のため、伐採にて対応されたい。



近隣にお住まいのみなさまへ

## 北川護岸のヤナギの伐採について

まちづくり部道路河川課長  
服部 浩明

平素より市の道路・河川行政にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

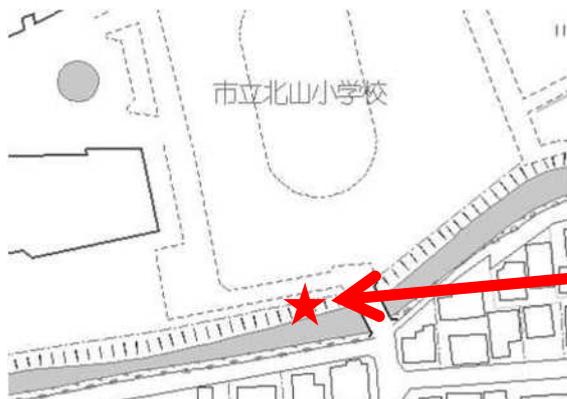
去る令和6年2月5日(月)の昼頃より降り始めた大雪の影響により、北川の小学校側の護岸に生えるヤナギ等の一部が折れた状態で発見されました。

調査の結果、ヤナギの幹が空洞化し、非常に危険な状態にあることが判明したため早期対応することをご承知置きください。

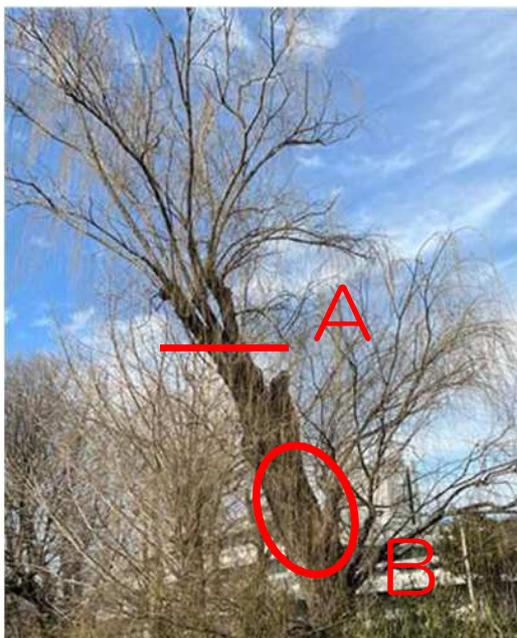
### 1. 経過

2月 6日(火)	北山小学校から校門付近のヤナギとサクラの枝が折れて危険と入電 折れたヤナギについては、児童の登下校に支障がないよう河川内へ押し込む応急処置にて対応
7日(水)	折れ枝の除去及び樹木点検を実施。従前より枯れていた枝が雪の重みにより折れたものであること、幹に空洞が肉眼でも確認できるほど進行していることを確認 ※サクラについては学校敷地のものであることから教育委員会で対応
8日(木)	河川樹木手入れの受託事業者と立ち合いを改めて実施 住宅地へ倒木の危険がある。春に向かい葉をつけ始め、日を追って風圧を受けやすい状態になることから早期の対応が必要との判断が示される。 ⇒最短で2月16日(金)に対応

### 2. 位置



### 3. 作業内容



#### A: 伐採ライン

この高さまで枝を落とすことで幹への負担を軽減

**※下部を残し当該樹木の再生を期待**

#### B: 空洞化箇所

小学校側から目視で確認可能。対岸からはわかりづらい。

**※高さがあるため倒れた際、対岸の住居や電線に被害を及ぼす可能性が高い。**



#### C: 空洞化箇所(学校側から)



#### C: 空洞化箇所(拡大)

反対側まで貫通していることから非常にもろい状態

幹に対して縦方向に空洞化し、裂けているような状態を目視で確認できる。

#### 【連絡先】

まちづくり部 道路河川課 維持補修係  
電話:393-5111(内線3782~3783)